

## (2) 桑

### ア 各病害虫の防除

赤渋病

裏うどんこ病

枝枯菌核病

こうやく病

白紋羽病、紫紋羽病

芽枯病

枝軟腐病

縮葉細菌病

萎縮病

アメリカシロヒトリ

カミキリムシ類(キボシカミキリ、クワカミキリ、トラフカミキリ)

クワエダシャク

クワキジラミ

クワゴマダラヒトリ

クワシロカイガラムシ

クワシントメタマバエ

アザミウマ類

ヒメコシンクイ(クワノコキクイムシ)

クワノメイガ(スキムシ)

クワヒメゾウムシ

ハムシ類(クワハムシ、クワノミハムシ)

ヒシモンヨコバイ

モンシロドクガ(キンケムシ)

ハダニ類

## ア 各病虫害の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病虫害)

### 赤渋病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 罹病芽を摘除して処分する(春先)。
- 2 多発桑園では桑株に緑の芽葉を残さないように伐採する(夏切時)。

### 裏うどんこ病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 通風を良くする。
- 2 葉の硬化が早い品種(改良鼠返)は罹病しやすい。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に薬剤を散布する。
- 2 トップジンM水和剤は蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。また、桑に使用后3日間は桑葉を蚕に給餌しない。

### 枝枯菌核病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 新梢に発病するので、見つけ次第切り取り処分する(5~6月)。

### こうやく病

---

- ・本項の[カライガラムシの防除](#)に基づき防除を行う。

(耕種的・物理的防除)

- 1 菌糸膜を削り取る(冬期)。

### 白紋羽病、紫紋羽病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 栽植予定地の検診(寄生植物による検索(紫紋羽病)及び樹枝埋没法(白紋羽病)による)を行う。
- 2 無病苗を植えつける。病苗の疑いのあるときは45℃の温湯に30分浸漬する。
- 3 施肥、収穫法等により樹勢を強く保つ。
- 4 罹病株は早期に除去する。
- 5 粗大有機物(残さなど)の発病桑園への施用は避ける。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【白紋羽病】](#)・[【紫紋羽病】](#)

- 1 桑の生育状況に留意し、発病株は速やかに除去し、跡地はバスアミド/ガスタード微粒剤により消毒する。
- 2 苗木の根部を薬剤に浸漬する。

### 芽枯病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 晩秋中間伐採枝条の切り口を1~2芽切り直す(11月)。  
※本病原菌は、晩秋蚕期に収穫した枝条の傷口から侵入する。
- 2 被害枝を処分する(2~3月)。

### 枝軟腐病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 十分な残葉を確保した収穫を行う(晩秋蚕期)。
- 2 多発地帯では、廃条等の畦間施用、野菜の間作を避ける。

- 罹病枝の除去、枯死株を処分する(11～1月)。

## 縮葉細菌病

(耕種的・物理的防除)

- 病斑の多い枝を切除して処分する(春先)。
- 窒素単肥の過度の施用を避け、桑園の日当たり、通風を良くする(梅雨時期)。
- 春切桑園に多発するので、春切桑園には本病抵抗性品種を選ぶ。
- 罹病枝条の伐採除去(中間伐採)を行う(晩秋期)。
- 多発桑園では、草生栽培を行う(発生初期：春)。

※一ノ瀬は発病しやすい。

## 萎縮病

(耕種的・物理的防除)

- 病徴発現枝条・株は速やかに剪除・枯殺する(発生時)。
- ヒシモンヨコバイの防除を行う([ヒシモンヨコバイの項](#)による)(6月～10月)。

※ヒシモンヨコバイは本病を媒介する。

- 発生地域では、夏蚕期の基部伐採を避ける。
- 窒素過多にならないよう注意する(夏秋期)。
- 排水を良くし、また、干ばつ防止に努める。
- 多発桑園では全面改植する。

※樹勢の低下した株が発病しやすい。

※しんいちのせ等への改植を行う。

## アメリカシロヒトリ

(耕種的・物理的防除)

- 網巢の中で群棲して加害している若齢幼虫期に、巣ごと枝葉を切り取って捕殺する(6月上・中旬、8月上・中旬)。

## カミキリムシ類(キボシカミキリ、クワカミキリ、トラフカミキリ)

(判断、防除に関する措置)

- 樹勢の低下した株には産卵が多くなり幼虫の成育も活発となる。

(耕種的・物理的防除)

- 桑園を巡視し成虫を捕殺する(6～10月)。
- 樹勢を低下させないように収穫法に注意する(6～10月)。
- 寄生被害株を除去し処分する(11～3月)。
- 株下げ、樹勢更新を行う(4月(発芽前))。

(薬剤防除) **農薬登録情報【カミキリムシ類】**

- 樹幹内の卵及び幼虫防除のため薬剤を散布する。
- 散布時期が遅れると桑芽に薬害を生ずるので脱苞前までに散布する。

## クワエダシャク

(耕種的・物理的防除)

- 活動しはじめた幼虫を見つけ次第捕殺する(4月(～燕口期))。
- 枝幹の裂目や枝分れの部分、株際の枯葉の陰に越冬幼虫(11～3月)が生息しているので集めて処分する。
- 枝条やわらを結束したものに越冬幼虫を集めて処分する(11～3月)。
- カモドキバチ、ヒラタヒメバチ、アメバチ等寄生蜂の保護に努める(薬剤散布を控える)。

※幼虫にカモドキバチ等の寄生蜂が寄生することが多い。

※黒変して硬化した死亡幼虫が枝に垂れ下がっているものはカモドキバチの寄生によって死亡したものであるからこれを保護する。

## クワキジラミ

(耕種的・物理的防除)

- 日当たり、通風を良くする。

- ※日当たりの悪い桑園や管理の悪い桑園で多発しやすい。
- 2 若虫が群棲する葉をろう物質が風で飛散しないうちに早期に撤去する(5月)。

## クワゴマダラヒトリ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 卵塊や網巣の中で群棲している幼虫を捕殺する(9～10月(秋期))。
  - 2 株際又は枯葉などを綴ってクモの巣状の天幕を張り群棲している越冬中の幼虫を捕殺する(10月(晩秋期))。
  - 3 活動しはじめた単独幼虫を見つけ次第捕殺する(春期)。
- ※雑食性であるので、雑草等も防除を行う。

## クワシロカイガラムシ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 寄生の著しい株は、株下げを行う。
  - 2 株直しを丁寧に仕上げる。
  - 3 見つけ次第こすり落とす。
  - 4 天敵(ヒメアカホシテントウ、寄生蜂など)の保護に努める。
- ※桑以外に梅、桃、桜、柿、ブドウ、茶など各種の永年作物に寄生する。  
※中刈や高刈をすると根刈よりも発生が多くなる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 孵化幼虫に対してエルサン乳剤を散布する。
- 2 若齢幼虫の防除のため、マシン油乳剤を散布する。防除適期は夏切直後(5月～11月ふ化幼虫期)である。
- 3 越冬成虫を対象に、マシン油を散布する。散布に際しては、樹皮面が十分濡れるように散布する。

## クワシントメタマバエ

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 低温多湿の年に多発の傾向がある。

(耕種的・物理的防除)

- 1 畦間、株間の乾燥に努め、清耕管理を心がける(梅雨や長雨の続いた後)。
  - 2 散布前に除草、下刈りを行う。
- ※雑草が多く土壌が湿潤な桑園で多発する。  
※梅雨期が長い傾向の年は梅雨明け直後に一斉に発生しやすい。  
※草生桑園、敷きわらした桑園に多発する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 スミチオン微粒剤を地表面散布する。

## アザミウマ類

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 ヒメアカホシテントウ、ヒメカメノコテントウ、コクロヒメテントウ等の保護に努める(夏期)。
- ※夏秋期に高温、少雨で日照の多い気象条件は、この害虫の成育を良くし、多発の原因になる。

## ヒメコシンクイ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害枝条を切除して処分する(11～3月(～成虫脱出期))。
- 2 多発地帯では、伐採枝を10数本束ねて桑園におき、成虫を誘致して処分する(6～9月(成虫出現時))。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 エルサン乳剤を散布する。

## クワノメイガ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 蚕への残毒日数を考慮して、薬剤を葉の裏面まで十分散布する。

## クワヒメゾウムシ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 前年伐採された刈込枝条の基部に生息しているので、この部分を枝ごと切り取る(春(萌芽期))。
- 2 刈込枝条基部の半枯部分を切除、除去する(11～3月)。
- 3 枯枝の整理を行う(11～3月)。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 成虫に対して薬剤を散布する。

## ハムシ類(クワハムシ、クワノミハムシ)

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 多発地帯は、除草耕耘により土壌の乾燥を図る。

※管理不十分で雑草が生い茂り、土壌が湿潤な桑園では発生しやすい。草生、敷きワラ施用、無耕起などの栽培条件でも多発しやすい。

## ヒシモンヨコバイ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 矯小枝を整理する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を散布する。

## モンシロドクガ

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 幼虫の捕殺に努める(4月(発芽期)・夏切後)。
- 2 畦間の枝条・落葉等を集めて処分する(11～3月)。
- 3 天敵(コマユバチ、ヤドリバエ等)の保護(夏期)に努める。

※幼虫で越冬する。

※毒毛をもち、刺されると炎症を起こすので、直接には触れないようにする。

※株際に堆積した落葉などは幼虫の潜伏場所となり、蛹化する場所にもなる。

## ハダニ類

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 夏秋期の高温乾燥条件により発生しやすい。

(耕種的・物理的防除)

- 1 越冬場所になりやすい枯葉や雑草の除去に努める(11～3月)。
- 2 天敵の保護、利用に努める。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を散布する。